

S O K E N D A I

総合研究大学院大学文化科学研究科

2021

国際日本研究専攻 概要

Department of Japanese Studies, School of Cultural and Social Studies
SOKENDAI (The Graduate University for Advanced Studies)



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

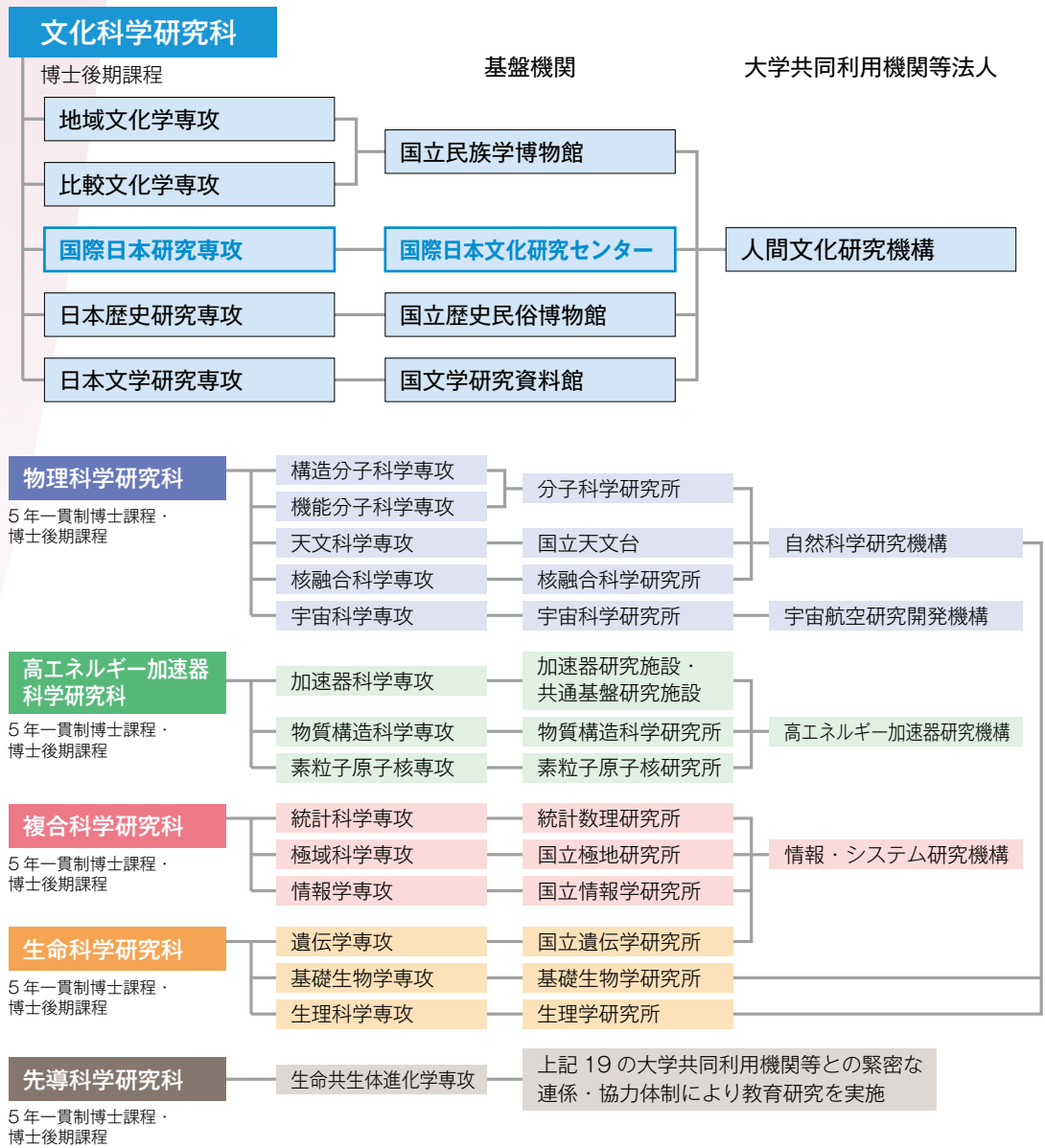
国際日本文化研究センター

National Institutes for the Humanities

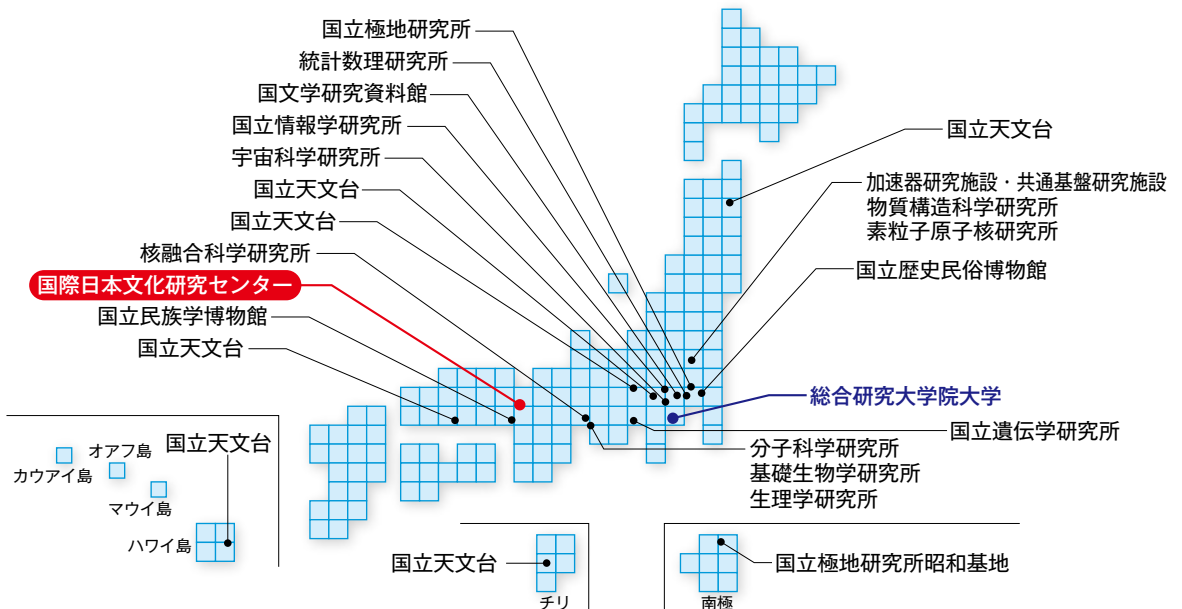
INTERNATIONAL RESEARCH CENTER
FOR JAPANESE STUDIES

総合研究大学院大学の組織について

● 教育研究組織



● 大学共同利用機関等の所在地



基盤機関 国際日本文化研究センター所長として



所長 井上 章一

総合研究大学院大学文化科学研究科の国際日本研究専攻は、国際日本文化研究センター（以下「日文研」）を基盤として設置されています。日文研は、国際的な視点から日本文化を学際的・総合的に研究するとともに、海外の日本研究者に対して研究上の便宜や研究協力を行うことを目的として設立された大学共同利用機関です。国内外の人文科学・社会科学、あるいはその関連分野における日本研究の一翼を担いつつ日本研究を深化させるとともに、日本文化研究に関する情報の収集・提供のための諸活動も行っています。

国際日本研究専攻では、日文研の優れた研究者と恵まれた研究環境をベースに、国際的な視点から日本文化に関する教育研究を行い、国際的・学際的な教育研究活動を通して国内外の若い研究者を育成することを目指しています。そのために、優れた外国人留学生も積極的に受け入れています。こうした使命を達成するために、教育面では単一の大講座のもとに多角的な視点から日本研究が可能となるようなカリキュラムを編成し、特徴ある柔軟な教育・研究体制を整えました。日文研が重視している他分野・他機関の研究者たちとの「共同研究」のための環境も整えています。日文研で研究を志すひとたちが、これらの優れた教育研究環境を活用し、立派な研究成果をあげて博士の学位を取得されることを期待しています。

国際日本研究専攻について



専攻長 フレデリック・クレインス

本専攻は学際性の高い研究環境を提供しています。これは担当教員リストからも一目瞭然です。各教員はそれぞれ異なる切り口で日本文化の研究に取り組んでいます。各々の専門分野のエキスパートでありながら、さまざまな研究分野を横断的に扱う能力を兼ね備えている教員が集っています。本専攻に入学される院生の皆さんは、指導教員のみならず、複数の教員から受ける指導のもとで、広い視野に立った研究能力を身に付けていくことができます。また、共同研究会やシンポジウム、セミナー、プロジェクトなど、基盤機関である国際日本文化研究センター（日文研）の学術研究の現場に触れていただくなかで、学際的精神を養い、日本研究の未来を担う研究者に成長していくことが期待されています。

学際性に富む一方で、日文研の活動は国際的にも展開しています。海外での学術イベントの開催運営や参画のほかに、毎年、海外の第一線で活躍している研究者の方々を一定数招聘しています。これらの研究者たちとの交流は、院生の研究生生活を豊かにし、博士論文執筆に役立つ新鮮な着想にもつながります。また、総合研究大学院大学のほかの基盤研究機関を母体とする専攻のなかで、国立歴史民俗博物館・国文学研究資料館・国立民族学博物館などは分野的に親和性が高く、文化フォーラムなどのような形で他専攻の学生との交流の機会もあります。

こうした国際的かつ学際的な研究環境の中で、将来的に国内外の学界で活躍していける研究者を育てていくことが本専攻の使命です。グローバルな視点に立った独創的な研究を志す学生の方を歓迎します。

専攻の概要

人文科学・社会科学・自然科学にわたる国際的・学際的な日本研究(Japanese Studies)をすすめるために、「教育・研究指導分野」としては、本専攻の特色である全教員の指導による、単一の「国際日本研究」を設けています。

共通必修科目としては、「日本研究基礎論」「学際研究論」「論文作成指導」を置き、国際的な立場から「日本研究」の理論的・方法的な指導を行っています。これらの研究と研究指導を推進することにより、創造的で高度な専門的視野と、幅広い学際性、複数の専攻を横断しうる総合性を備えた研究者の育成を目指しています。

設置の目的

国際日本研究専攻は、国際日本文化研究センターがもつ多様な研究者と優れた研究環境をもとに、国際的・学際的な視野で日本の文化と文明について教育研究を行い、高度で視野の広い国際性豊かな研究者育成を目的としています。

● 令和3(2021)年度開講科目

教育研究指導分野	概要	授業科目	担当教員
共通必修科目	各教員の携わっている最新のテーマ及びその目的や方法論を語り、日本研究の最前線の講義と、日本研究の基礎となる理論的・方法的枠組みを明確化する研究を行う。	日本研究基礎論	全教員
	学際的な論文作成の推進のために口頭発表及び質疑応答の練習を行い、博士論文執筆を具体的に促す。	学際研究論	全教員
	論文作成のために必要な講義・演習・実習を個別にプログラムし、関係教員の協力を得て実施する。	論文作成指導	指導教員及び関係教員
選択科目	本専攻の基盤機関である国際日本文化研究センターが企画するシンポジウム、セミナー、共同研究会等の計画運営に参加することにより、その運営方法を体験実習する。	シンポジウム等運営実習	関係教員

複数教員指導体制

本専攻では、主任指導教員のほか、2名の副主任指導教員の指導を仰ぎます。

また、それ以外の専攻教員や外国人研究員に随時相談をすることも可能です。

教員が主催する共同研究への参画、基礎領域研究などでの研練、さらに日文研に集う内外の日本研究者によるセミナーなどに参加することができます。

こうした刺激に富んだ恵まれた研究環境にあって、学位の取得をめざします。



日本研究基礎論 授業風景

学生支援

調査・研究に必要な移動経費・学会参加費・文献複写経費等の支給のために、大学院生研究プロジェクト経費、海外学生派遣事業経費などが用意されています。

また、論文作成の上で必要な物品及び図書の購入希望も申請できます。



院生室

奨学金制度

私費外国人留学生の修学を促進するため、以下のような奨学金制度が整備されています。

- ・文部科学省外国人留学生学習奨励費制度
- ・(一財)国際日本文化研究交流財団奨学金 等

また、日本人学生は、日本学生支援機構奨学金に応募することができます。



国際日本文化研究センター図書館の利用

学位授与、修了までの流れ



在学生からのメッセージ

国際日本研究専攻へようこそ

日本学術振興会特別研究員(DC2) 葉 暁瑤

修士から日本学を専攻とした私は、常に日本学が何なのかを考えています。最初のころ驚いたのは、一つの専攻とはいえ先生方の専門はそれぞれ異なっていることです。民俗、美術史、文化交流史の話は一つの研究室で飛び交っています。少し混乱しつつも、どこか魅力的な気がしていました。そこで博士課程に進学する際に、「国際日本学」と称する研究機関としての「日文研」を選びました。日文研には総研大の国際日本研究専攻が設置されています。

日文研は、国際線の乗継便の多い空港のように年間を通じて国内外の研究者の往来を見届けています。日本学の魅力は、まさに空港という場所が象徴しているように、横断的・越境的なところがあると悟りました。単一文化の枠を越えて、一国の固有性や特異性に執着せず、異質な文化との相互交流・摩擦のコンテクストを重視する視角が求められています。世界中の研究者が日文研にやって来て自分の肩の荷である知識や文化を周りと共有し、そして周りから新たな知識や文化を享受し、背負っていくわけです。

在学生の私たちは、概ね享受する側にいます。図書館の豊富な蔵書および取り寄せサービス、さらに豪華な教授陣にサポートされていることは心強いです。共同研究会や日本研究基礎論等の場では、シニア研究者との交流を深め、研究スタンスを確立していきます。こうして身につけた学際的な研究能力や知識をまたいつかは世界の各地で種のように撒いて、ナショナリズムを思わせる名前を冠しながらも、脱ナショナリズムの研究活動に従事している「日本学」を発芽させ、提供する側に立つことが期待できるでしょう。

担当教員の紹介

(令和3年7月1日現在)

- ① 専門分野
- ② 現在の研究テーマ

フレデリック・クレインス 教授 (専攻長)



- ① 日欧交渉史
- ② 平戸オランダ商館、ウィリアム・アダマス(三浦按針)、細川ガラシャの研究を行っています。また、「西洋における日本観の形成と展開」という共同研究も進めています。

荒木 浩 教授



- ① 日本文学
- ② 私は、源氏物語、今昔物語集、徒然草など古典の研究を行い、夢の文化にも関心を抱いてきました。現在は、古典文化の国際的・現代的な可能性を探るため、「ソリッドな(無常)／フラジヤイルな(無常)―古典の変相と未来観」という共同研究を立ち上げ、新たな考察を進めています。

磯田 道史 教授



- ① 日本史学
- ② 近世中後期の幕藩政改革を研究しています。さらに東日本震災後は、歴史地震津波の史料を調べ解説し防災に役立てる試みをはじめました。また最近では、自治体と連携し、伊賀・甲賀など忍び(忍者)の古文書を調査しています。

磯前 順一 教授



- ① 宗教学、批判理論
- ② 悪行を行ないながら、自分を善良だと思ふ姿に人間の本質を見るような気がします。そうした心の働きの中で神という観念も、差別という現象も発生してくるのではないのでしょうか。それが私が宗教に関心を持つ理由です。

伊東 貴之 教授



- ① 中国思想史、東アジア比較文化交渉史
- ② 中国における哲学・思想の歴史について、広く日本や韓国・朝鮮などを含む東アジア文化圏の中に位置づけて、研究しております。また、場合によっては欧米を含む、よりグローバルな視座で、比較や交流の視点も加味して、考察しています。

牛村 圭 教授



- ① 比較文学、比較文化論、文明論
- ② 明治期日本のスポーツとりわけ陸上競技の歴史を、文明の観点から読み直すという作業に取り組んでいます。1912年のストックホルムオリンピックへの参加が、「世界の一等国」(文明国)と肩を並べた瞬間だった、という視点からの考察です。

大塚 英志 教授



- ① まんが表現史・まんが創作理論・柳田國男研究
- ② まんが及び周辺メディアの表現様式の相互関係を特に戦時下プロパガンダを例にメディアミックスという視点から解析します。また、まんがが創作理論をメディア理論として再評価します。

倉本 一宏 教授



- ① 日本古代史、古記録学
- ② 日本古代国家の成立の様相と意義を、北東アジア世界の諸外国との比較の中で追究しています。また、平安貴族の記録した日記(古記録)の解読を通して、平安貴族の政治・文化・社会・宗教の真の姿を解明しています。

関野 樹 教授



- ① 情報学
- ② 時間に基づいて情報の可視化や解析を行うための研究開発をしています。これらの成果は、「HuTime」などのソフトウェアやWebアプリケーション、和暦などの日付を扱うための基盤データとして、一般に公開しています。

瀧井 一博 教授 (日文研副所長)



- ① 国制史、比較法史
- ② 明治立憲体制の成立と展開を知識社会史と国際関係史の観点から考察しています。日本の憲法史を一国の固有な現象ではなく、ウチとソトの視角から捉え直し、国際的に通用するような研究をしたいと考えています。

坪井 秀人 教授



- ① 日本近代文学・文化史
- ② 戦前戦中戦後における日本と東アジアおよび北米にまたがる環太平洋の空間における(難民を含む)種々の移動と、それに伴う抑圧や抵抗のありようについて文学や芸術に関わって多様に展開された運動を対象に研究します。

松田 利彦 教授 (日文研副所長)



- ① 日朝・日韓関係史
- ② 日本統治期朝鮮における医療衛生政策を研究しています。特に赤痢菌の発見者として著名な細菌学者・志賀潔の足取りを追うことで、日本人医学者と朝鮮社会の関係、アメリカを中心とする医学研究の世界的変動と日本帝国の関係などを考えています。

安井 眞奈美 教授

- ① 日本民俗学、文化人類学
- ② 妊娠、出産に関する習俗・人間関係・医療の変遷などを解明するため、日本とミクロネシアでフィールドワークを続けています。また人々が、身体のイメージをどのように想像し、図像化してきたのか、民間信仰や医学、美術などが重なり合った分野から明らかにしたいと研究を進めています。



山田 奨治 教授

- ① 情報学、文化交流史
- ② 著作権制度の変化とそれが文化に与える影響、日本の禅やポピュラー・カルチャーなどが海外に伝播したときに起きた変容とそれに対する日本側の応答、デジタル・ヒューマニティーズに関することなどを研究しています。



劉 建輝 教授

- ① 日中文化交流史
- ② 近代東アジアについて、従来の一国史観を乗り越え、西洋近代とともに受容する一文化共同体として捉え直し、日中をはじめとする当地域全体の文化的相互影響、相互干渉を追跡しています。



マルクス・リュッターマン 教授

- ① 日本中世社会史(古文書学、文化史学)・記号論・心性史・言動史 ② 菅浦文書、契沖の知識論などを経て今や故実書・文学・筆跡の実例を中心に、中近世の礼儀作法を、とりわけ日本語による書簡類を研究しております。言動及び心性の傾向を解明したく、欧州とも比較考察しながら、認識論及び記号論と人類文化及び科学(例えば行動学)との関連を問います。



榎本 渉 准教授

- ① 中世国際交流史
- ② 私の研究テーマは、9世紀から14世紀の日本と海外との交流です。この時代の日本は外交に関心が低かった一方で、民間主導の交流は前後の時代よりも盛んでした。その具体相を主に貿易商人と渡航僧に着目して研究しています。



楠 綾子 准教授

- ① 日本政治外交史、安全保障論
- ② 日米間の安全保障関係は、1950年代にその基盤が形成されました。さまざまな選択肢のなかから、基地の提供と運用を中核とする関係がなぜ、どのように2国間で構築されたのかを明らかにするとともに、1950年代という「戦後」の時代像を描きたいと思っています。



大塚 英志教授と倉本 一宏教授は、2024年3月退任予定です。

学位授与と学位取得状況

● 国際日本研究専攻の学位

国際日本研究専攻を修了した者には、博士の学位(学術)が授与されます。

● 年度別学位授与者数

年度	(平成)6~13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	(令和)元	(令和)2	計
課程博士	17	2	4	6	0	0	3	1	3	1	2	3	2	3	2	1	4	3	2	3	62
論文博士	10	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	3	4	1	0	0	3	1	1	1	28
計	27	2	4	7	1	1	3	1	3	1	3	6	6	4	2	1	7	4	3	4	90

● 博士学位授与者

課程博士

(入学年度順)

入学年度	氏名	論文題目	学位授与日
平成4年度	青木 淳	像内納入品資料に見る中世的「結衆」の特質 —快慶作例を中心とする結縁交名の総合的研究	平成7年3月23日
	禹 鐘泰	異類婚譚にみる人格統合の象徴化—日本と韓国	平成8年3月21日
平成5年度	銭 国紅	世界像の形成—徳川日本と中国	平成8年3月21日
	小林 博行	食の思想・安藤昌益	平成8年9月30日
平成6年度	津田 順子	神歌の伝承と変成—沖縄県宮古島狩俣集落の事例から	平成9年3月24日
	小幡・マリヤ・セリア	アルゼンチンの日本人移民の歴史—自由移民と日系社会形成	平成9年3月24日
	多田 伊織	日本霊異記の研究	平成9年3月24日
平成7年度	嘉本 伊都子	「国際結婚」の歴史社会学的研究—1636～1899	平成9年9月30日
	鈴木 則子	日本近世社会と病—癩医学の展開をめぐって	平成9年9月30日
	加藤 善朗	当麻曼茶羅講讀と中世浄土教	平成11年3月24日
	土居 浩	無縁墓地の系譜	平成11年3月24日
平成8年度	バルト・ガーンズ	The Organization of Merchant Houses in Tokugawa Japan —a Comparison with the Low Countries	平成11年3月24日
	申 昌浩	韓国的ナショナリズム形成における宗教と政治 —東学・親日仏教・改新教(プロテスタント)の分析を通じて	平成12年3月24日
	尾觸 智子	絶対透明の探究：遠藤高環著「写法新術」の研究	平成13年9月28日
平成9年度	平井 晶子	家とライフコースの歴史社会学—近世東北農村の歴史人口学的分析	平成14年3月22日
	戦 暁梅	富岡鉄斎の画風についての思想的、藝術的考察 —鉄斎画の賛文研究を通じて	平成13年3月23日
	武内 恵美子	歌舞伎演奏者の楽師論的研究—近世上方を中心として	平成16年9月30日
平成10年度	唐 権	海を越えた艶事—中国と日本の人的交流 1684～1894	平成14年3月22日
	小川 順子	チャンバラ映画における「殺陣」	平成16年3月24日
	松村 薫子	糞掃衣の研究—福田会の事例を中心に	平成16年3月24日
	片平 幸	〈日本庭園〉像の形成と解釈の葛藤： 英語圏の眼差しと日本側の応答(1868～1940)	平成16年9月30日
平成11年度	森本 一彦	半檀家にみる「家」の歴史的展開—宗門改帳の数量的分析	平成15年3月24日
	伊藤 奈保子	インドネシア宗教史における鑄造像・法具の展開—日本との比較	平成16年9月30日
平成12年度	永松 敦	日本における狩猟民俗の生成と変遷に関する歴史民俗学的研究	平成15年3月24日
	伊東 章子	科学・技術をめぐる言説の歴史的展開とナショナル・アイデンティティの変容—両大戦間期以降を概観して	平成15年9月30日
	ウリケル・パドゥルボアチ	Napoleon wars and International System: with special reference to the Ottoman Empire and Japan	平成17年3月24日
平成13年度	那須 浩郎	The origin and dispersal of agriculture in China and Japan —Archaeobotanical study of Chengtoushan site, Hunan, China	平成16年3月24日
	岩井 茂樹	歌道と茶道における恋歌の諸問題—その歴史的展開と社会的背景について	平成16年9月30日
	中谷 正和	物質文化からみた先史東アジアの調理技術—農耕社会成立期における中国大陸沿岸部と日本列島の事例を中心として	平成17年3月24日
平成15年度	武藤 秀太郎	近代日本の社会科学と東アジア	平成20年3月19日
	李 偉	大名庭園の空間構成に関する研究—江戸時代の庭園における「眺望」—	平成20年3月19日
	堀 まどか	野口米次郎—「二重国籍」詩人の生涯と作品世界	平成21年9月30日
平成16年度	戸矢 理衣奈	「東京銀座資生堂」：福原信三と企業イメージの構築	平成22年9月30日
	酒井 順一郎	清国人日本留学生に於ける教育文化交流—宏文学院を中心にして—	平成20年3月19日
平成17年度	澤田 晴美	近代日本文化における伝統演劇と近松門左衛門—アカデミズム・劇評・役者の身体	平成21年3月24日
	中野 洋平	信濃巫女の研究—近世日本における民間宗教者の存在形態とその形成	平成22年3月24日
平成18年度	横山 輝樹	江戸幕府武芸奨励策の研究—画期としての徳川吉宗—	平成25年3月22日
	梅 定娥	「満洲国」文化人古丁の思想的変遷をさぐる—翻訳、創作、出版	平成22年3月24日
平成19年度	小山 周子	大正新版画の研究—版元を中心とした美術の成立、構造と展開	平成26年3月20日
	長門 洋平	溝口健二映画にみる音響と映像の美学—物語構造の視聴覚的分析	平成24年3月23日
平成20年度	鈴木 堅弘	近世春画・春本の図像研究—その背景表現への考察—	平成24年9月28日
	陳 凌虹	中国近代演劇の成立と日本—文明戯と新派を中心に	平成24年3月23日
	徳永 誓子	「融通念仏縁起」の研究—物語絵にみる日本中世の信仰世界—	平成25年3月22日
	岡本 貴久子	「記念植樹」と近代日本—林学者本多静六の思想と事績を手掛かりに—	平成26年3月20日

平成22年度	漆崎 まり	江戸長唄の基礎的研究	平成26年9月29日
	韓 玲玲	満州における北村謙次郎の文学活動	平成27年3月24日
平成23年度	アントン・ルイス・カビストラ・セビリア	Exporting the Ethics of Emptiness: Applications, Limitations, and Possibilities of Watsuji Tetsurō's Ethical System	平成27年3月24日
	簡 中昊	近代日本の台湾原住民認識—作家たちが見た「野蛮人」—	平成28年3月24日
平成24年度	栄 元	租借地大連における日本語新聞の事業活動—満洲日日新聞を中心に—	平成29年3月24日
	西田 彰一	国体論者としての寛克彦—その思想と活動—	平成29年9月28日
平成25年度	光平 有希	江戸期・明治期日本音楽療法思想—養生論及び西洋医学理論の受容史を中心に—	平成28年3月24日
	宇佐美 智之	集落動態にみる北部九州弥生社会の生成と展開	平成30年3月23日
	小泉 友則	日本における「子どもの性」に関する認識・情報の変遷—近世後期から明治後期にかけて子どもの性的欲望・現象はいかに語られてきたのか—	平成30年3月23日
	山村 奨	近代日本の陽明学理解の系譜	平成30年3月23日
平成26年度	坂 知尋	地獄の鬼婆から浄土の導き手へ：文学、図像、儀式、信仰実践における奪衣婆の表象についての考察	平成31年3月22日
	大石 真澄	映像内要素の構成・配列とその理解実践から見た1970～80年代日本のテレビCM	令和2年9月28日
	Gouranga Charan PRADHAN	19世紀末・20世紀初頭の英米における『方丈記』の受容—夏目漱石の「英訳方丈記」を中心に—	平成31年3月22日
	君島 彩子	平和祈念信仰における観音像の研究	平成31年3月22日
	春藤 献一	戦後日本の動物愛護—動物(犬・猫)愛護運動と動物保護管理行政—1947-2000	令和元年9月27日
平成27年度	片岡 真伊	小説とノヴェルのあいだ—戦後期日本小説の英訳・出版現場の探究—	令和元年9月27日
	田村 美由紀	近現代日本文学におけるディスアビリティとジェンダー—身体・性・書くこと—	令和3年3月24日
平成28年度	宋 琦	江戸時代中後期における神儒仏三教思想—形態と構造の分析を中心に—	令和3年3月24日

以上62名

論文博士

(授与日付順)

氏名	論文題目	学位授与日
王 勇	聖徳太子と中国文化—歴史を動かした慧思後身説	平成8年9月30日
シワニ・ナンディ	Socio-Technological Issues of Technology Transfer; A Specific case study of the Maruti-Suzuki Collaboration	平成9年3月24日
マゾ・L.シュレスト	企業の多国籍化と技術移転—ポスト雁行形態の経営戦略	平成9年3月24日
鈴木 貞美	梶井基次郎研究	平成9年3月24日
伊藤 賢次	東アジアにおける日本企業の経営—経営のグローバル化と「日本的経営」の移転	平成10年3月24日
北川 勝彦	日本—南アフリカ通商関係史研究	平成11年3月24日
胡口 靖夫	近江朝と渡来人—百濟鬼室氏を中心として	平成11年3月24日
高田 康孝	生活文化と世相の変容に関する研究—20世紀日本における高度経済成長期を中心に	平成11年3月24日
濱口 恵俊	日本研究原論—「関係体」としての日本人と日本社会	平成11年9月30日
チャオ 埴原 三鈴	Japan Literacy in Australia—A Changing Demand over Eighty Years	平成13年9月28日
北川 淳子	The Nature and Development of Chestnut (<i>Castanea crenata</i>) and Horse Chestnut (<i>Aesculus turbinata</i>) Culture in Japan	平成16年9月30日
岡村 敬二	日満文化協会の歴史—創設から解散まで	平成18年3月24日
香川 雅信	日本人の妖怪観の変遷に関する研究—近世後期の「妖怪娯楽」を中心に	平成18年9月29日
山口 欧志	古代社会の景観考古学的研究—遺跡のデジタルドキュメンテーションと景観分析—	平成23年9月30日
姜 鶯燕	徳川幕臣の身分的変容に関する研究—いわゆる「御家人株の売買」の問題を中心に—	平成24年9月28日
柴田 依子	ポール＝ルイ・クーシューと日本—その生涯とフランスにおける俳句受容	平成25年3月22日
野呂田 純一	幕末・明治の美意識と美術政策	平成25年3月22日
青野 正明	朝鮮総督府の神社政策と国家神道の論理—1930年代を中心に—	平成26年3月20日
根川 幸男	戦前・戦中期ブラジルにおける日系移民子弟教育の史的探究	平成26年3月20日
金 炳辰	革命的サンディカリスト大杉栄—「生の創造」に基づいた革命展望—	平成26年3月20日
コルネーエヴァ・スヴェトラーナ	江戸時代前期の喧嘩口論事件の処理に関する歴史社会学的考察—盛岡藩と加賀藩の事例を中心に—	平成26年3月20日
石川 肇	舟橋聖一論—「抵抗の文学」を問直す	平成27年3月24日
門脇 朋裕	近世前期における幕府全国法令の伝達・施行に関する研究	平成29年9月28日
長尾 洋子	〈うたの町〉をめぐる近代の空間誌—おわら風の盆の半世紀に耳を澄ます	平成30年3月23日
マシュー・ラーキング	The Pan Real Art Association as an Early Postwar Avant-Garde of Nihonga	平成30年3月23日
石川 巧	戦中・戦後の稀観雑誌と出版文化に関する研究	平成30年9月28日
松宮 貴之	近現代中国の「経世致用」思想と書法への展開—郭沫若を中心として	令和2年3月24日
篠崎 敦史	平安時代の国際関係と外交の研究—古代から中世移行期における東アジアとの交流の歴史的意義—	令和3年3月24日

以上28名

● 文化科学研究科の入学者状況

令和3年度(4月入学)入学者選抜実施状況

研究科	専攻	入学者選抜実施状況			入学者内訳				
		入学定員	志願者	合格者	入学者	性別		外国人	有職者
						男	女		
文化科学	地域文化学	3	4	2	2	2	0	1	1
	比較文化学	3	2	2	2	0	2	0	1
	国際日本研究	3	8	2	2	1	1	1	0
	日本歴史研究	3	5	4	4	2	2	0	2
	日本文学研究	3	1	1	1	0	1	0	0
	合計	15	20	11	11	5	6	2	4

● 国際日本研究専攻の国別在学生

(令和3年4月1日現在)

	日本	中国	合計
1年次	1	1	2
2年次	2	1	3
3年次	8	7	15
合計	11	9	20

● 国際日本研究専攻修了者の進路

秋田大学・東京工業大学・京都大学・奈良女子大学・広島大学・高知女子大学・宮崎公立大学・ものづくり大学・大妻女子大学・中部大学・京都女子大学・京都精華大学・京都文教大学・種智院大学・同志社女子大学・東北師範大学・白鳳女子短期大学・国際日本文化研究センター・国立歴史民俗博物館・日本学術振興会外国人研究員・チュラロンコン大学・パジャジャラン大学・株式会社IRIS・華東師範大学・帝京大学・九州大学・大阪大学・大阪市立大学・江蘇理工学院・国立屏東大学・北京語言大学・愛知淑徳大学 等

修了生からのメッセージ

田村 美由紀 (2021年3月学位取得)

私は2015年4月に本専攻に入学し、2021年3月に学位を取得しました。本専攻には、思う存分研究に打ち込める環境や設備が用意されています。特に、基盤機関である国際日本文化研究センターの豊富な研究リソースを活用できる点は大きなメリットと言えるでしょう。図書館や各種データベースの利用はもちろんのこと、所内で開催されるセミナーや共同研究会、シンポジウム等に参加することも可能で、各分野の第一線で活躍する先生方の議論に学びながら、自分の知識や興味の幅を広げることができます。また、学会発表や資料調査などで遠方へ出向く際の旅費や参加費が支給される研究支援制度も手厚いです。私もこの制度を利用して、国内学会のみならず、海外で開催された学会にも複数回参加することができました。経済的な事情に左右されず、積極的に研究に取り組める体制が整っていることは非常にありがたく、モチベーションの向上にも繋がりました。

本専攻には留学生も多く、様々なバックグラウンドを持つ院生が集まっています。研究テーマも多種多様なので、専門分野ごとに編成されるのが一般的な他大学の博士課程とは少し雰囲気が異なるかもしれません。しかし、分野の違う院生同士の交流が良い刺激となり、自分の専門だけに固執しては見えてこなかった問題に気づいたり、新たな着想を得られたりすることも少なくありません。普段の院生生活のなかで学際的な視野を養う機会に恵まれている点も、本専攻ならではの魅力です。

このような充実した研究環境をどのように活用するかは学生それぞれに委ねられています。自分のやり方次第で、想像の何倍も実りある時間が過ごせるはずです。私は先生方のご指導をはじめ、多くの方々のサポートのおかげで博士論文を形にすることができました。本専攻で積み重ねた経験を糧として、今後もさらに精進していきたいと思えます。



学位記授与式

※詳しくは本年度の「学生募集要項」をご覧ください。

● 入学定員

専攻	入学定員	基盤機関
国際日本研究	3	国際日本文化研究センター

● 出願資格

修士の学位を有する者又は令和4年3月までに取得する見込みがある者のほか、本学において修士に相当する学力があると認められた者。

● 選抜の方法

選抜は、第一次選抜(書類選考、修士論文等の審査)、及び第二次選抜(面接)により行います。
※第一次選抜合格者に対して、第二次選抜期日及び時間を通知します。

● 出願期間

令和3年11月25日(木)から 令和3年12月1日(水)

● 第二次選抜(面接)及び実施場所

【試験日】 令和4年1月24日(月) 【予備日：令和4年1月25日(火)】

第二次選抜は、第一次選抜合格者についてのみ行います。

【場 所】 オンラインで実施します。

● 募集要項請求

日本国内から郵送にて請求する場合

請求者の住所、氏名、郵便番号を明記し、400円の切手を貼付した返信用封筒(角形2号・縦33.2cm 横24cm)を下記宛に送付してください。

国際日本文化研究センター 研究協力課 研究支援係

〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地 電話：075-335-2052

電子メールにて請求する場合

下記メールアドレスに、以下の必要事項を記入し、送信してください。

総合研究大学院大学 学務課 学生係

電子メールアドレス：gakusei@ml.soken.ac.jp

(受信確認のメールを送付するため、携帯電話のメールアドレスは使用しないでください。)

①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④電話番号 ⑤希望する募集要項→2022年度4月入学

文化科学研究科

※なお、受信確認のメールは、原則3営業日以内に送付します。

受信確認のメールがない場合は、お手数ですが、再度、必要事項を送信してください。

アドミッション・ポリシー

● 専攻の基本方針

国際日本研究専攻は、独創性、実証性、周辺分野に関する学際的で広範囲な知識を軸にした日本研究の教育指導を行い、多角的な視野と国際的に高い水準の能力を備えた次世代の日本研究を担う研究者の育成を目的とします。

● 求める学生像

日本研究を広い視野に立つて行う学際的研究に強い関心と意欲を有し、自立した研究者として将来にわたって研究活動を発展させ、日本研究の国際化に貢献できる学生を期待しています。

● 入学者選抜の基本的な考え方

第一次選抜(書類審査)では、提出された修士論文や学術論文等を評価し、志望研究内容およびその他の出願書類を総合的に評価して判定します。修士論文・学術論文等は、論文形式、独創性・発展性、論理性・実証性について、志望研究内容は、独創性、計画性、将来性について、評価します。(修士論文以外では既に刊行された論文等の提出があった場合は、修士論文とあわせて評価します。)

第二次選抜(面接審査)では、口頭試問を通してこれまでの研究実績や、これから志望する研究テーマ、さらにプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、将来性を審査し、第一次選抜の評点に加え、総合的に判定します。

Q1. 授業料免除制度はありますか？

A. 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる方に対し、授業料を免除する制度があります。毎年、前期・後期各1回ずつ申請の機会があり、一定の審査を経て決定されます。

Q2. リサーチ・アシスタント(RA)制度はありますか？

A. 国際日本研究専攻に在籍する大学院生の中から、研究又は教育に係る補助業務を行う者を、RAとして雇用し、専攻内において自身の研究を有益に遂行できる体制を作っており、その労働の対価として給与を支給し、経済的支援を行っています。

Q3. 専攻が設置されているのは、葉山ですか？京都ですか？

A. 京都です。本専攻の基盤機関である国際日本文化研究センターが、研究指導や論文執筆の拠点となります。なお入学式や学位記授与式など全学的な行事は、大学本部である葉山キャンパスで実施されます。

Q4. 出願前に、希望指導教員を決めておく必要がありますか？

A. 希望指導教員を決めたうえで、指導を希望する教員と教育指導領域・内容について面談・メール等により出願前に相談してください。なお基本的に事務担当者から教員紹介はしませんので、本専攻概要及び専攻ホームページ内の教員紹介をご覧ください。

Q5. 遠方在住でも学位取得は可能ですか？

A. 現在も、遠方在住のまま、学位取得を目指している学生は多数います。ただし、授業開講日には必ず登校する必要があります。

Q6. 10月入学はできますか？

A. 10月入学を設けておりません。

Q7. 文化科学研究科の他専攻との併願は可能ですか？

A. できません。他研究科の専攻であれば可能です。

Q8. 日本学術振興会特別研究員(DC1、2)採用者はいますか？

A. 令和3(2021)年度現在、1名のDC1採用者及び1名のDC2採用者がいます(平成31年度、令和2年度採用)。



入学式



学際研究論 授業風景

日文研の研究活動について

国際日本文化研究センター（日文研）は、日本文化に関する国際的・学際的な総合研究と世界の日本研究者に対する研究協力・支援を行うことを目的として、昭和62年5月21日、文部省大学共同利用機関として設置されました。平成16年4月からは大学共同利用機関法人・人間文化研究機構を構成する研究所となりました。

日文研の活動は、研究活動（個人研究・基礎研究・共同研究）・研究協力活動・普及活動の3つの柱から成り立っています。これらの中から、特に本専攻在学生に関わりの深い活動についてご紹介します。

● 共同研究

日本文化を研究するためには、関係する個別専門分野ごとの成果が着実に積み重ねられなければなりません。併せて専門分野の枠組みを越えて、研究者が相互に知見を高めあう場が必要になります。こうした共同研究の場は、総体として日本文化理解の促進に大きな役割を果たすものと考えています。

また、日文研の共同研究では、日本と異なる知的伝統にたつ海外の研究者との交流をも重視しています。さらに、国際化の時代を迎えた今日、日本文化研究もまた国際化を図ることで時代の要請に応えることができるものと考えます。

このように、日文研の共同研究は、単なる研究成果の交換にとどまるものではなく、専門分野及び知的伝統を異にする研究者たちが研究過程を共有し合うことによって生みだされる創造性こそをめざしているのです。

◆令和3（2021）年度の共同研究は、次の18課題です。

（令和3（2021）年7月1日現在）

研究域	研究課題	研究代表者
重点共同研究	応永・永享期文化論 —「北山文化」「東山文化」という大衆の歴史観のはざままで—	大橋 直義 榎本 渉
	近代東アジア文化史の再構築Ⅰ—19世紀の百年間を中心に	劉 建輝
	文明としてのスポーツ／文化としてのスポーツ	牛村 圭
	比較のなかの「東アジア」の「近世」 —新しい世界史の認識と構想のために—	伊東 貴之
	国際的文化的発信のなかの日本像—柳澤健の学際的研究—	芝崎 厚士 楠 綾子
国際共同研究	身体イメージの想像と展開—医療・美術・民間信仰の狭間で	安井 真奈美 ローレンス・マルソー
	植民地帝国日本とグローバルな知の連環	松田 利彦
	蜘蛛の巣上の無明：電子情報網生態系下の身心知の将来	稲賀 繁美
	日文研所蔵井上哲次郎関係書簡の研究—国民国家の始発と終焉	磯前 順一 菊田 真司
	ソリッドな〈無常〉／フラジャイルな〈無常〉—古典の変相と未来観	荒木 浩
	日本のサブカルチャーと多様性 グローバルな多様化社会に貢献する 国際日本学の研究方針とペダゴジー	エルネスト・デイ・ アルバン エドモン
基幹共同研究	「かのように」という原理で形成してきた文通 —「文書」概念や、その様式、記号、表象、意図性	マルクス・ リュッターマン
	縮小社会の文化創造：個・ネットワーク・資本・制度の観点から	山田 奨治
	戦後日本の傷跡	坪井 秀人 宇野田 尚哉
	日本型教育の文明史的位相	瀧井 一博
	貴族とは何か、武士とは何か	倉本 一宏
	西洋における日本観の形成と展開	フレデリック・クレインス
	東アジアの Multidisciplinary Science としての本草学の再構成 —実物検証を伴う文理融合研究の新展開—	伊藤 謙 磯田 道史

● 基礎領域研究

このとりくみでは、専任教員が自発的に基礎的な課題を設定し、分野の異なる研究者たちとその能力を共有することがめざされます。一種のゼミナールですが、おのずと超領域的な討議をひきおこし、研究上の新しい課題を浮上させることもあり、その意味で、基礎領域研究とよばれています。

◆令和3年度は、以下の11の基礎領域研究を開催しています。

研究課題	担当教員	研究課題	担当教員
英文日本歴史研究書講読	牛村 圭	フランスの運用(応用)	松木 裕美
中世文学講読	荒木 浩	文学・文化史理論入門	坪井 秀人
韓国語の運用(基礎・応用)	松田 利彦	近現代史史料文献研究	瀧井 一博
古記録学基礎研究	倉本 一宏	中国古典学の基礎	伊東 貴之
フランス語の運用(基礎)	松木 裕美	近代宗教思想史基礎論	磯前 順一
		日本政治外交史文献・史料購読	楠 綾子

● 研究協力

内外の研究者との交流のために、以下のような研究の場を設けています。大学院生、留学生の参加も奨励しています。

● 日文研フォーラム

来日中の外国人研究者に発表と交流の場を提供することを目的に、毎月開催しています。テーマは日本に関連したものに限り、1回ごとに完結する形式です。

● 日文研木曜セミナー

研究者の交流を目的として、第三木曜日に開催しています。

● Nichibunken Evening Seminar

外国人日本研究者の研究発表、国際交流を兼ねた英語によるセミナーです。

このほかに、不定期のレクチャーやシンポジウムも開催しています。

● 国際研究集会等

日本の文化、社会に対する世界各国の関心の高まりにともない、研究者の問題意識、研究方法も著しく多様化してきています。このような状況に対応するため、主として日文研での共同研究をテーマに、昭和63年から国際研究集会を実施し、日本研究発展のための国際的な討論の場を設けています。

このほか、日文研では、海外においても研究活動・研究協力活動を行うため、海外シンポジウム・海外研究交流シンポジウム・海外における日本研究会等を展開しています。

本専攻の在學生は、これら国際研究集会等への参加に、各種の便宜がはかられています。



国際研究集会



国際研究集会での大学院生の発表

● 図書館

日本研究に必要な各種資料を幅広く収集し(図書資料約50万冊)、国内外の研究者の利用に供するとともに、様々な情報を提供しています。利用者は図書を自由に手にとって閲覧することができます。

図書資料館、第二図書資料館、および平成26年に新設された第三図書資料館には合わせて約60万冊が収容可能な固定書架・電動集密書架のほか、貴重図書室、地図資料室、研究用個室、グループ研究室、マイクロ資料室等が配置されています。

資料の収集方針

1. 外国語で書かれた日本研究図書および訳書の網羅的収集

日文研では標記資料を「外書」と呼び、その網羅的収集に努めており、図書館蔵書の特色のひとつとして内外から高い評価を得ています。平成9年度には、創立10周年を記念して、収集資料のうち1900年以前に刊行された欧文図書から善本1,057点を選び詳細な所蔵目録を作成しました。

2. 日本研究に必要な基本図書・雑誌の収集

国内外を問わず、日本研究を行ううえで必要な図書・雑誌は「基本図書」として積極的に収集しています。原本が入手困難な資料については、マイクロフィルム版で収集しています。

3. 日本研究に関する文献目録、索引等の網羅的収集

日本研究を進めるうえで必要な文献を探すツールとして、各種文献目録や索引等を網羅的に収集しています。

4. 視聴覚資料

妖怪、浮世絵、春画、古地図、DVD・CDなどの映像音響資料を積極的に収集しています。

資料の利用

日文研に所属する研究者・学生等は、日文研が所蔵する資料を、貴重書等の例外を除いて自由に利用できます。外部の方でも、学術研究・調査等を目的とする場合であれば、事前申請のうえ閲覧が可能です。日文研が所蔵する資料は、インターネットを通じて外部からも検索でき、NACSIS-I/LL(図書館間相互利用制度)にもとづいて日文研以外の機関から文献複写や現物貸借を申し込むこともできます。

職員によるサービスは、平日午前9時から午後5時までです。ただし、日文研に所属する研究者・学生等は、平日は午後9時まで、平日以外でも午前9時から午後9時まで利用できます。

● 日文研のデータベース一覧

井上哲次郎宛書簡	在外日本美術	日本関係欧文図書目録
艶本資料	所蔵地図	俳諧
怪異・妖怪絵姿	西洋医学史古典文献(野間文庫)	平安京都名所図会
怪異・妖怪伝承	撰関期古記録	平安人物志
外像	宗田文庫図版資料	都年中行事画帖
古写真	日中歴史研究センター旧蔵書目録	連歌
古事類苑ページ検索システム	日本関係欧文貴重書	和歌
		他

<https://db.nichibun.ac.jp/ja/>

バス利用の場合

■ **阪急桂駅(西口)**から
京阪京都交通バス「20」、「20B」桂坂中央行きに乗車(約20分)、「花の舞公園前」下車、徒歩約5分。

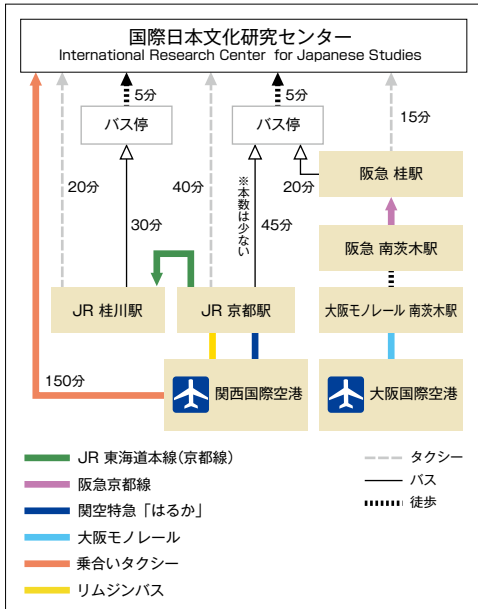
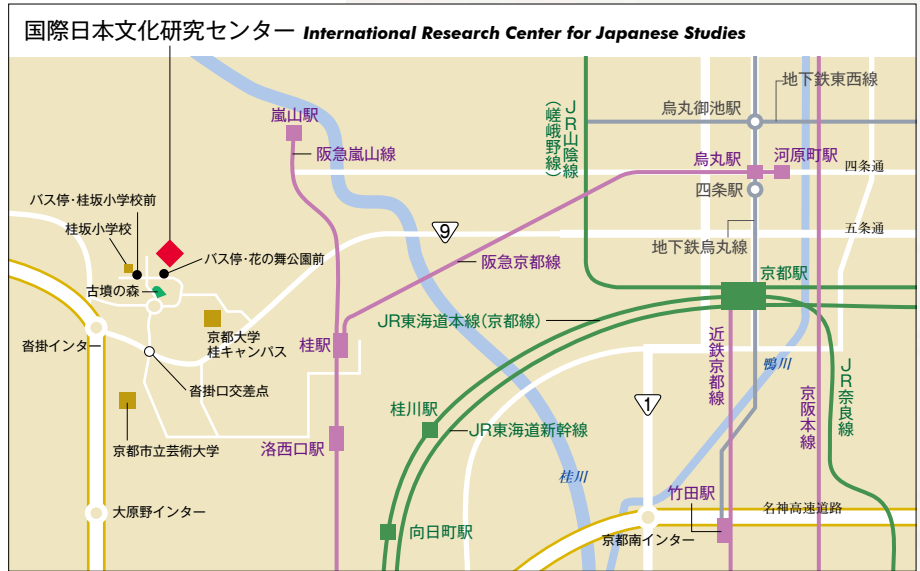
京都市バス「西5」、「西6」桂坂中央行きに乗車(約30分)、「桂坂小学校前」下車、徒歩約5分。

■ **JR京都駅(烏丸中央口)**から
京阪京都交通バス「26」桂小橋經由桂坂中央行きに乗車(約45分)、「桂坂小学校前」下車、徒歩約5分。または、「21」、「21A」桂坂中央行きに乗車(約45分)、「花の舞公園前」下車、徒歩約5分。

■ **JR桂川駅**から
ヤサカバス「1」、「6」桂坂中央行きに乗車(約30分)、「花の舞公園前」下車、徒歩約5分。

タクシー利用の場合

- 阪急桂駅西口から約15分(約1,500円)
- JR桂川駅から約20分(約2,000円)
- JR京都駅から約40分(約3,500円)



S O K E N D A I

総合研究大学院大学

〒240-0193
神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)
TEL 046-858-1500(代表)
<https://www.soken.ac.jp/>



国際日本文化研究センター

〒610-1192
京都市西京区御陵大枝山町3丁目2番地
TEL 075-335-2052 / E-mail senkou@nichibun.ac.jp (大学院担当)
<https://www.nichibun.ac.jp/ja/>

